

夜景のプロが徹底解剖



丸々もとお

夜景評論家／夜景プロデューサー／イルミネーションプロデューサー
(一社)夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事

長崎・ハウステンボスの 知られざるイルミネーションの魅力。

イルミネーションアワード総合エンタテインメント部門第一位を9年連続獲得しているハウステンボスのイルミネーション。年々進化する演出は常に話題をさらっているが、夜景&イルミネーションのプロの目線からその実態を探ると、今までに語られた事のない魅力が浮かび上がってきた。夜景評論家で、イルミネーションプロデューサーの丸々もとお氏が、同施設の冬季のイルミネーションを徹底解剖してみた。

①<白銀の世界>

今、最も熱いエリアは「白銀の世界」だろう。建物から街路樹まで全て真っ白に染まる世界感は全国の他のイルミネーション施設では味わえない。どの場所から撮影しても簡単にフォトジェニックな写真が撮影できるが、プロの目線で探ると・・・白銀に瞬くスタッドハウスと遠方のドムートルンの間に十字架のような街灯が出現しているのだ。美しいスタッドハウスが女王なら、堅固なドムートルンはまるで王様のように、その間を十字架がつなぐというメッセージ性の高い夜景。永遠の愛を誓った王と女王にあやかれるスポットとして、カップルにはお薦めしたい。



②<光の滝>

ハウステンボスの大型演出「光の滝」。ドムートルンのたもとから流れ出る光の水流はアートガーデンまで続き、各所からその光景を存分に鑑賞できる。が、プロの目線で探ってみると、実は大きな穴場があった。それは、光の滝に向かって右端、水流が下ったあたりのトイレの前だ。ここまで足を運ぶ人はほとんどいないため、ゆっくりと撮影できるが、何よりもその構図が見事。ドムートルンは水上に出現した塔のように見え、運河の向こう側に広がる街並みとドムートルンと光の滝がパノラマ的に展開。さらに、薄暮の時間帯には視界全てが青の世界に染まる。穴場の場所で穴場の夜景。その醍醐味をぜひ。



③<アンブレラストリート>

夜景は視覚だけで楽しむものではない、嗅覚も非常に重要だ。とは、丸々とお氏の弁。その理由はこの場所に訪れれば分かるという。アンブレラストリートの中心、ショコラ伯爵の館の前に立つと、チョコレートの甘い香りがやってくる。そんな匂いの中でアンブレラのイルミネーションを眺めていると、懐かしい“アンブレラチョコ”が光輝いているように見えてくるから不思議だ。甘い香りが懐かしい記憶を蘇らせてくれるようで、過去へのタイムトリップを楽しむイルミネーションストリートとして楽しんで欲しい。



④<ウォーターマジック>

日本最長の音楽噴水イルミネーションの幻想世界。そのインパクト溢れる光景は周辺部のどこからでも堪能できるが、丸々氏のお薦めは噴水に向かって左端、風車の裏側に位置するベンチスペースだ。普段は吹き上げる水しぶきを間近で楽しんでしまいがちだが、この場所までやってくると、運河の全景や風車と噴水がパノラマ的に展開。風車をしっかり画面の中に入れ込むことで“オランダ感”が確実にアップするのだ。コロナで行けない海外旅行気分を味わえる貴重なスポットと言えるだろう。



⑤<ハーバーゲート付近>

ゲートを抜けてすぐ運河に突き当たるが、ちょうどその付近から右方向の夜景を眺めてみると、びっくり。ドムトールンを正面に、左側に迎賓館、右側に観覧車と、3つの大型ライトアップが同時に鑑賞できるのだ。広大なハウステンボス場内で、この3つの共演が楽しめるのはまさにピンポイントのここだけ。撮影スポットとしても見逃せない。



⑥<ドムトールン付近の橋上から>

ハーバーゲートを入り右手に進むと、左側にドムトールンへ向かう橋が登場する。実はこの橋上が、極上の夜景スポットなのだ。ドムトールンの右側に目を向けると、遠くに丸い観覧車のイルミネーション、その手前の橋と水面にも丸い光の線が2つ。そう、3つの円が同時に鑑賞できるのだ。円は縁をつなぐという意味があるように、三重のご縁がいただけるような幸福な夜景。ぜひ、未来の願いを込めてこの場所で夜景を眺めていただきたい。



⑦<ホテルアムステルダム横>

スタッドハウスから光のファンタジアシティ方向へ歩いて進むと、ホテルアムステルダムの横に位置するバス停が登場。実はその裏手には運河へ降りる階段があり、降りてみると写真のような夜景が鑑賞できるのだ。まるで猫の顔のようにも見えるキュートな光景。ハウステンボスはLED1300万球に及ぶゴージャスな光の世界ばかりと思われがちだが、実は陰影のある夜景が人々の想像力を豊かにしてくれる。光があれば影がある。夜景やイルミネーションの懐の深さをじっくり楽しんでもらいたい。





丸々 もとお

夜景評論家／夜景プロデューサー／イルミネーションプロデューサー
(一社)夜景観光コンベンション・ビューロー代表理事

1965年生まれ。立教大学社会学部観光学科卒。1992年『東京夜景』上梓。日本でも唯一無比の夜景評論家として本格的活動を始める。「夜景」の美しさを景観学、色彩心理学などをベースに評論する等、夜景の本質を浮き彫りにする独自の「夜景学」の構築に取り組んでいる。夜演出については世界でただひとりギネス世界記録を3つ(①世界最大の光の地上絵、②世界最大の光の彫刻、③世界最大の水面プロジェクションマッピング)を同時取得。夜景に関する著書は50冊以上。近作に、「日本夜景遺産15周年記念版」(河出書房新社)、「日本のイルミネーション Best」(廣済堂)等がある。神戸市、横浜市、長崎市、川崎市、周南市、足利市、広島県、札幌市等で夜景観光アドバイザーを歴任。「夜景観光士検定」総監修。日本初の工場夜景クルーズを手がけ「かながわ観光大賞」を受賞。イルミネーションのプロデュースに「ジオイルミネーション」(福井)、「TOKYO MEGA ILLUMINATION」(東京・大井競馬場)、「アパリゾート上越妙高イルミネーション」(新潟)、「門司港レトロ」(福岡)「小倉イルミネーション」(福岡)、「ハウステンボス」(長崎)、等、年間数十カ所を手掛ける。ライトアップに「出島」「国宝・大浦天主堂」、中町教会、北九州アイアンツリー等多数。

※商標登録『夜景評論家』第4408194号

※照明コンサルタント(一般社団法人照明学会認定)

※ボーイスカウト埼玉県連盟広報大使

【丸々もとおのスーパー夜景サイト】 <http://www.superyakei.com>

【一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューロー】 <http://www.yakei-cvb.or.jp/>